

科目名	単位数(時間)	開講時期	担当講師	実務経験
成人看護学概論	1単位(30)	1年次 6月	専任教員	あり(看護師)

科目目標:

1. 成人期の特徴と成人特有の健康問題について理解する。
2. 成人の健康観と保健行動の特徴および成人の理解と看護において有用とされる理論について理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師	
1回 2回	1 成人の特徴 (1)発達段階・発達課題 (2)身体的・心理社会的特徴	講義	専任教員	
3回	2 成人の健康に影響を及ぼす社会情勢と保健動向 (1)人口統計 ①平均寿命 ②死因別死亡率 ③有訴者、受療率			
4回	(2)学校保健 (3) 地域保健 (4) 産業保健			
5回	3 成人期にある人の多様な健康観と保健行動 (1)健康観の多様性と看護 ①多様な健康観と影響を及ぼす要因 ②保健行動と健康観 ③保健行動における			
6回	4 成人期の学習の特徴 (1)アンドラゴジー成人教育理論 (2)エンパワーメント理論 ①アドヒアランス②自己概念/自己尊重			
7回	5 ヘルスプロモーション (1)成人期に見られる主な健康障害とその予防 (2)成人の生活と健康 ①生活習慣と健康障害(発生要因)			
8回	②生活習慣病の特徴と対策 ・メタボリック症候群 ③生活環境・社会環境と健康問題			
9回	6 成人の社会的役割と健康 (1)成人の社会的役割(役割理論) (2)職業性疾病及び業務上疾病 (3)予防と対応(労働衛生対策の基本)			
10回	7 セクシャリティに関する健康問題 8 成人の生活ストレスに関連する健康障害 (1)成人の生活ストレス (2)ストレス関連疾患の予防と対応 ①ストレス・コーピング理論 ②適応理論			
11回	9 成人の理解と看護において有用とされる理論 (1)危機理論 (2)障害の受容・価値の変換			
12回	(3)病みの軌跡理論			
13回	(4)セルフケア理論			
14回	(5)自己効力(社会学的学習理論)			
15回	修了認定試験:筆記試験100点、 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)			筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)
使用テキスト	新体系看護学全書 専門分野Ⅱ 成人看護学 成人看護学概論/成人保健 メヂカルフレンド社 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会			

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
セルフマネジメントに向けての看護	1単位(30)	2年次4月	外部講師	あり(看護師)
			専任教員	あり(看護師)

科目目標:

成人期にある慢性疾患患者のセルフマネジメント継続のための、学習支援と健康管理支援について理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 慢性疾患におけるセルフマネジメントの考え方の理解 (1)セルフマネジメントの支援の構成要素 ①知識・技術(医療者と患者のパートナーシップ) ②自信の形成 ③患者と医療者のQOLに関する認識の合意 (2)セルフマネジメントのための主要概念 ①問題解決 ②意思決定 ③自己効力感	講義	専任教員
2回	(3)セルフマネジメント支援に必要な看護 ①役割の明確化 ②病みの軌跡の予測と確認 ③病状コントロールの専門知識と技術 ④患者の自己効力を高める技術 ⑤患者・家族指導の技術 ⑥社会資源の活用		
3回	2 糖尿病をもつ人のアセスメント (1)生活習慣との関連、病態となりゆき (2)注目すべき検査データ(空腹時血糖,HbA1Cなど) (3)治療の基本と目標(食事療法、運動療法、薬物療法)		
4回	3 糖尿病のセルフマネジメント支援 (1)症状に応じた看護 ①口渇 ②多飲 ③多尿 ④尿糖 ⑤易疲労感 ⑥易感染 ⑦体重減少 ⑧低血糖 ⑨神経障害 ⑩腎障害 ⑪糖尿病性ケトアシドーシス ⑫高浸透圧高血糖症候群		
5回	4 教育的関わりと指導技術(自己効力を高める指導) (1)食事・運動療法の指導 (2)薬物療法の指導(経口糖尿病薬,自己血糖測定,インスリン自己注射) (3)セルフモニタリング (4)シックデイの対処方法 (5)感染予防(フットケア) (6)性生活に関する相談 (7)インスリンの指導技術 ①患者指導の目的②指導方法 (8)社会資源の活用		
6回	5 慢性閉塞性肺疾患をもつ人のセルフマネジメント (1)慢性閉塞性肺疾患を持つ人のアセスメント ①呼吸不全の定義と診断基準 ②喫煙との関連、病態となりゆき		
7回	(2)慢性閉塞性肺疾患を持つ人のセルフマネジメント支援 ①急性増悪期の症状と看護		
8回	②安定期のセルフマネジメント a 気道感染予防 b 呼吸リハビリテーション c 体位ドレナージ d 在宅酸素療法 e 日常生活行動		
9回	(3)口腔内・気管内吸引		

授業回数	授業計画	授業方法	講師
10回 11回 12回	6 慢性腎不全をもつ人のセルフマネジメント (1)慢性腎不全をもつ人のアセスメント ①生活習慣との関係、病態となりゆき ②注目すべき検査データ(尿検査, BUN, Cr, UA,電解質, 血算 等) (2)慢性腎不全のセルフマネジメント支援 ①症状に応じた看護 a 倦怠感 b 易疲労感 c 脱水 d 浮腫 e 高血圧 f 皮膚搔痒感 g 代謝性アシドーシス h 高P・低Ca血症 i尿毒症 (3)セルフマネジメントの指導 ①食事指導 ②薬物療法指導 ③生活指導(感染, 脱水, 過労予防, 禁煙) (4)検査・処置・治療時の看護 ①腎生検②シャント造設③腎臓移植術 (5)透析を受ける患者の看護(透析導入期、透析安定期、社会復帰期) ①透析の目的と適応 ②腹膜透析(CAPD)の看護 ③血液透析の看護 ⑤合併症の看護	講義	外部講師 (看護師)
13回	7 肝硬変をもつ人のセルフマネジメント (1)肝硬変をもつ人のアセスメント ①生活習慣との関連, 病態となりゆき ②注目すべき検査データ(AST,ALT,AIB, Bil , NH3 等) (2)肝硬変のセルフマネジメント支援 ①症状に応じた看護(代償期・非代償期) a 倦怠感 b 黄疸 c 腹水 d 浮腫 e 肝性脳症 f 食道静脈瘤	講義	専任教員
14回	②セルフマネジメントの指導 a 食事 b 薬物療法 c 生活指導(感染, 脱水, 過労予防, 禁酒, 禁煙 肝庇護, 感染予防, 排便コントロールなど) (3)検査・処置・治療時の看護 ①肝生検 ②PTCD ③PTGBD ④ENBD		
15回	修了認定試験:筆記試験100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用 テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会 文光堂 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 成人看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧ 医学書院 写真でわかる臨床看護技術2 インターメディカ		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
健康危機状況における看護	1単位(30)	2年次 5月	外部講師	あり(看護師)
			専任教員	あり(看護師)

科目目標:

- 急性状態および、生命状態の危機の観察や看護判断、患者の状態に応じた看護について理解する。
- 手術、検査、薬物療法等の身体的侵襲を伴う治療を受ける患者の看護について理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 健康危機状況の看護の特徴 (1)成人における健康危機状況(クリティカルケア) (2)侵襲的治療(手術療法)を受ける人の看護 ①周術期におけるチーム医療と看護師の役割 ②インフォームドコンセントと看護師の役割	講義	専任教員
2回	2 生命の危機状態にある人の看護 (1)救命・集中治療を必要とする人の看護 ①集中治療の対象となる人の特徴 ②治療・検査・処置時の看護	講義	外部講師 (看護師)
3回	(2)循環不全のある人の看護 ①急性心筋梗塞の看護(検査・治療時の看護含む) ②狭心症の看護(検査・治療時の看護含む) ③急性心不全の看護(アセスメント・看護問題・援助方法)		
4回	(3)開心術を必要とする人の看護 ①弁置換術		
5回	(4)12誘導心電図・心電図モニター	校内実習	外部講師 専任教員
6回	3 周術期看護 (1)周術期看護の特徴 ①手術侵襲と生体反応 ②術後合併症 ③麻酔による身体への影響 ④手術療法の過程(クリティカルパス)	講義	専任教員
7回	(2)手術前の看護		
8回	①術前検査の評価 ②手術に影響を及ぼす疾患(既往歴) ③手術に影響を及ぼす薬剤 ④術前処置 ⑤術前訓練 ⑥家族への支援		
9回	(3)手術中の看護 ①手術室看護師の役割(直接介助・間接介助・チーム医療) ②入室から麻酔導入、麻酔維持までの看護 a 全身麻酔 b 脊椎麻酔 c 硬膜外麻酔の介助 d 手術体位 e 安全確保 f 心理的ケア ③麻酔維持中、執刀中の看護 a 環境調整 b 体温,呼吸,循環管理 c 感染予防・事故防止 ④麻酔覚醒から帰棟までの看護 a 麻酔覚醒時の介助 b 全身状態の観察 c 病棟への引継ぎ	講義	外部講師 (看護師)
10回	(4)手術後の看護 ①術直後の看護 a 環境調整 b 術後ベッド作成 c 術後観察 ②術後合併症の予防	講義	専任教員
11回	③回復を促進する援助 a 創傷処置および創傷治癒過程 b 離床への看護 ④日常生活の自立に向けての援助		
12回	(5)胃切除術を受ける人の看護 ①術後合併症予防への援助 ②術後ドレーン管理 ③腹腔鏡下手術		

授業回数	授業計画	授業方法	講師
13回	(6) 人工肛門造設術を受ける人の看護 ①術前処置(ストーマサイトマーキング) ②術後ストーマ管理 ③ストーマの自己管理に向けた援助 ④障害受容への支援	講義	専任教員
14回	(7)肺葉切除を受ける人の看護 ①呼吸機能回復への援助 ②術後合併症予防 ③胸腔ドレーン管理 ④胸腔鏡下手術		
15回	修了認定試験:筆記試験 100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	系統別看護学講座 別冊 臨床外科看護総論 医学書院 講義から実習へ高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 医歯薬出版 講義から実習へ高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版 講義から実習へ高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 医歯薬出版 写真でわかる臨床看護技術2 インターメディカ		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
セルフケア再獲得に向けての看護	1単位(30)	1年次 11 月	外部講師	あり(看護師)
			専任教員	あり(看護師)

科目目標:

1. 生活者としての成人を主軸としてと捉え、セルフケアの必要性について理解する。
2. 可逆的または不可逆的な障害を持ちセルフケアが低下した成人のセルフケア再獲得に向けての看護について理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 セルフケアの再獲得が必要な成人の理解 (1)セルフケア低下と再獲得 ①セルフケア再獲得モデル(オレム、コーン、ライト) ②受容・適応のプロセス (2)セルフケア再獲得と自立(依存と自立) (3)セルフケア低下のアセスメント (4)セルフケア再獲得を支援する方法	講義	専任教員
2回	2 地域生活や余暇生活に関わるセルフケア (中途視覚障害にある人の看護) (1)中途視覚障害者の特徴 (2)人的法的システム (3)視覚障害リハビリテーション		
3回	3 生命維持に関わるセルフケア (脳血管障害急性期にある人の看護) (1)急性期治療 ①脳血管障害の病態 ②呼吸管理 ③循環管理 ④脳浮腫の改善	講義	外部講師 (看護師)
4回	(2)急性期の看護 ①バイタルサインの観察 ②二次障害の予防 ③早期リハビリテーション		
5回	4 日常生活に関わるセルフケア (脳血管障害回復期にある人の看護) (1)脳血管障害回復期にある人の看護 ①特徴的な症状 a運動麻痺 b感覚障害 c不随意運動 d失語症 e半側空間無視 f高次脳機能障害 ②セルフケア再獲得への支援 a生活基本行動 b社会生活 c心理的支援		
6回 7回	5 家庭におけるセルフケア (脳血管障害家庭復帰期にある人の看護) (1)社会復帰に向けた看護 ①家庭生活適応のための機能訓練 ②社会生活適応のための機能訓練 (2)退院調整活動		
8回	6 役割の再獲得と維持 (関節リウマチを持つ人の看護) (1)関節リウマチの病態と治療 ①関節痛、関節の変形 ②関節外症状 ③ステロイド療法と副作用	講義	外部講師 (看護師)
9回	(2)関節リウマチを持つ人のセルフケアの再獲得 ①症状に合わせたセルフケアの再獲得 ②家庭や社会的役割の変更とセルフケア再獲得		

授業回数	授業計画	授業方法	講師
10回 11回 12回	7 職業生活に関するセルフケア (脊髄損傷の人の看護) (1)脊髄損傷の病態と治療 ①損傷部位と症状(呼吸・消化器症状、膀胱直腸障害、自律神経障害) ②脊髄ショック症状 ③機能障害による日常生活の障害 (2)障害の受容に向けた援助 ①リハビリ開始と二次障害予防 a 障害部位と回復目標 b 残存機能の維持拡大 c 排泄障害の援助 d 褥瘡予防 e 関節拘縮予防 ②自立に向けた援助 a 補助具の活用 b 二次障害の自己管理 ③精神的な支援 ④社会資源の活用	講義	専任教員
13回 14回	8 セクシャリティに関わるセルフケア (乳がんの人の看護) (1)乳がんの病態と治療 ①診断のための検査(センチネルリンパ生検) ②治療法(手術療法、放射線療法、薬物療法) (2)精神的な支援(ボディイメージの変化と適応) (3)退院に向けた支援 ①リンパ節郭清術後のセルフケア(リンパ浮腫・感染予防) ②患側上肢リハビリテーション	講義	外部講師 (認定看護師)
15回	修了認定試験:筆記試験100点、 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用 テキスト	成人看護学②健康危機状況/セルフケアの再獲得 ナーシンググラフィカ 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 医学書院 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
緩和ケアを必要とする人の看護	1単位(30)	2年次 7月	外部講師	あり(看護師)
			専任教員	あり(看護師)

科目目標:

1. 終末期にある人の全人的な苦痛の緩和と、その個人がもつ力を最後まで支え、望みを実現できるような看護のあり方について理解する。
2. 緩和ケアを必要とする人と取り巻く家族のニーズを理解し、「人が生きる意味」を問い続ける姿勢を養う。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 終末期にある人の特徴 (1) 人の生命、死と医療 ①生命の尊厳 ②死生観と緩和ケア (2) がんという疾病の特徴 (3) がん以外の疾病で終末を迎える人	講義	専任教員
2回 3回	2 終末期医療における倫理 (1) 意思決定を支える関わり ①患者の権利 ②家族の権利 (2) 終末期ケアにおける倫理的葛藤と判断 (3) 終末期ケアにおける患者・家族との対応	講義	外部講師 (認定看護師)
4回	3 終末期にある人の看護 (1) 緩和ケアとは (2) 療養と生活の場 (3) チームアプローチ (4) 患者との関係確立 (5) 全人的苦痛(トータルペイン)の理解 (6) 精神的・社会的・霊的苦痛(スピリチュアルペイン)の緩和	講義	専任教員
5回 6回	4 終末期にある人の苦痛緩和技術の理解 (1) 身体的苦痛の緩和 ①痛み ②倦怠感 ③発熱 ④食欲不振 ⑤黄疸(搔痒) ⑥咳嗽・呼吸困難 ⑦浮腫・腹水・腹部膨満 ⑧嘔気・嘔吐		
7回	(2) 合併症や二次障害の予防、緩和 ①感染リスク ②皮膚統合性障害 ③脱毛 ④便秘	講義	外部講師 (認定看護師)
8回	(3) がん性疼痛 (4) 除痛ラダー (5) 麻薬の管理		
9回	(6) 化学療法に伴う苦痛の緩和 ①白血病 ②卵巣がん ③肝臓がん ④肺がん ⑤乳がん	講義	専任教員
10回	(7) 補完代替療法(リラクゼーション・音楽・マッサージ・温浴) タッチング・共感・傾聴	校内実習	外部講師 専任教員
11回	(8) 日常生活行動の援助 ①その人らしく ②希望に沿って ③安楽の探求	講義	専任教員
12回	5 治療および栄養摂取の種類と選択 (1) 中心静脈栄養の管理 (2) 中心静脈カテーテルの管理		
	6 家族への援助 (1) 家族が直面する危機 (2) 家族の希望 (3) 家族の支援	講義	専任教員
13回	7 危篤・臨終の看護 (1) 身体的変化の観察と症状緩和		
14回	(2) 患者・家族への配慮 (3) 死の三徴 (4) 死後の処置	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
15回	修了認定試験:筆記試験 100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)		
使用テキスト	成人看護学⑥ 緩和ケア ナーシンググラフィカ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 成人看護学④ 医学書院		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
成人の看護過程	1単位(30)	2年次 5月	専任教員	あり(看護師)

科目目標:

成人期の特徴をふまえて、事例の看護過程の展開をする。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 セルフマネジメントが必要な人の事例展開 (1)セルフマネジメントが必要な人の事例提示 ①対象の把握	演習	専任教員
2回	(2)セルフマネジメント支援に必要な情報収集とアセスメント ①ヘルスプロモーション ②栄養代謝の障害 ③対象の信念、価値観および病気に対する認識 ④対象のセルフケア能力 ⑤ストレスコーピング		
3回	(3)セルフマネジメントにおける問題の明確化 ①関連図にて全体像の把握 ②看護診断とその根拠 ③診断リスト		
4回	(4)セルフマネジメント支援に必要な看護介入計画 ①目標設定(長期目標・期待される結果)		
5回	②セルフマネジメント確立に向けた看護計画立案		
6回	(5)セルフマネジメントに向けた看護介入計画の評価 ①援助結果の評価と看護計画の修正		
7回	2 セルフマネジメントが必要な人の教育指導		
8回	(1)教育指導技術 ①指導計画、パンフレット作成 ②教育指導の実際		
9回	3 周手術期にある人の事例展開 (1)周手術期にある人の事例提示 ①対象の把握		
10回	(2)周手術期にある人の情報収集とアセスメント ①術前検査の査定 ②生体侵襲と合併症 ③合併症予防と早期離床の必要性 ④精神的・身体的苦痛		
11回	(3)周手術期にある人の問題の明確化 ①関連図にて全体像の把握		
12回	(4)周手術期にある人の看護介入計画および評価 ①目標設定(長期目標・期待される結果) ②合併症予防および早期回復に向けた看護介入計画立案 ③看護介入計画の評価		
13回	4 周手術期に特有な看護技術	校内実習	
14回	(1)術後の観察 (2)術後合併症予防への援助 (3)早期離床への援助		
15回	修了認定試験:筆記試験 100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	系統別看護学講座 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会 文光堂 系統別看護学講座 別冊 臨床外科看護総論 医学書院 系統別看護学講座 専門基礎Ⅱ成人看護学⑤ 消化器 医学書院 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 医歯薬出版 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 医歯薬出版 写真でわかる臨床看護技術2 インターメディカ		